

一般社団法人日本小児血液・がん学会
2016年度臨時社員総会議事録

1. 日 時：2016年12月16日（金） 16時00分から17時00分まで
2. 場 所：品川プリンスホテルアネックスタワー5階 第1会場 大雪・岩木・浅間・立山
3. 出席者：社員（評議員）総数 295名 この議決権数 295個
出席社員（評議員） 271名（委任状を含む） この議決権数 271個
4. 議 長：檜山英三
5. 定足数

以上のとおり定足数に達したので、定款の規定により理事長檜山英三は議長席に着き、開会を宣し、直ちに議事に入った。

第1号議案 議事録署名人の選任の件

議長は、議事録署名人について、本日出席の大喜多肇評議員と松本公一評議員の2名を指名し、その承認を全員に諮ったところ、異議なく承認された。

（報告事項）

1. 庶務報告の件

議長は、庶務・財務委員会真部 淳委員長に報告を依頼し、真部委員長より庶務報告がなされた。

2. 新専門医制度の進捗状況説明の件

議長は、専門医制度委員会井上雅美委員長に報告を依頼し、井上委員長より報告がなされた。

日本専門医機構の主導する新専門医制度に小児血液・がん専門医も含まれており、現在は体制構築の過程にある。本会としては以下のように対応している。

- ・新専門医制度WGを設置し、専門医制度新整備基準を策定した。今後は理事長諮問委員会として継続して検討する予定である。
- ・日本血液学会専門医制度新整備基準案に関して、日本血液学会へ本会の見解を伝え、承諾を得た。
- ・日本がん治療認定医機構とも協議し、今後の体制を検討している。

3. 新診療ガイドライン解説の件

議長は、診療ガイドライン委員会小野 滋委員長に報告を依頼し、小野委員長より以下の報告がなされた。

＜ガイドライン改訂の基本方針＞

- ・診療ガイドライン、システマティックレビューの寿命は5年程度と考えられており、診療ガイドラインの改訂は5年以内が望ましい
- ・作成形式：CQ形式（再設定）
- ・推奨作成：患者アウトカムに期待される効果（益）にのみでなく、有害事象（害）のバランスを重視
- ・診療アルゴリズムの作成
- ・文献検索のデータベース：PubMed

＜小児白血病・リンパ腫診療ガイドライン（2016年改訂版）（第3版）の改訂内容＞

- ・CQの見直し、再設定
- ・疾患の追加：ランゲルハンス細胞組織球症
- ・支持療法の項目追加：がん疼痛の管理

＜小児がん診療ガイドライン（2016年改訂版）（第2版）の改訂内容＞

- ・CQの見直し、再設定
- ・疾患項目の追加：その他のまれな腫瘍
- ・項目の追加：腫瘍生検・中枢ルート

4. 疾患登録集計結果の解説の件

議長は、学術・調査委員会堀部敬三委員長に報告を依頼し、堀部委員長より以下の報告がなされた。

- ・研究計画が「20歳未満に発症する血液疾患と小児がんに関する疫学研究」改訂 ver2.1 へと改訂され、学会研究倫理審査において承認された。学会ホームページに研究計画書類が掲載されているため、会員施設にて審査申請するよう周知がなされた。
- ・学会ホームページ内、会員ページに集計結果および施設別登録症例数一覧を掲載している。
- ・疾患登録データの二次利用を希望する場合は、「疾患登録データ利用申請書」（学会 HP に掲載）の提出が必要である。
- ・これまでは過去3年分の疾患登録が可能であったが、2017年6月1日以降は過去1年分の疾患までしか登録できないよう改正される。未登録の疾患がある施設は2017年5月31日までに登録するよう周知がなされた。
- ・2013・2014・2015年度の疾患登録集計結果が報告された。

5. 委員会活動状況報告

議長より、各委員会活動状況について、資料をもとに、以下の報告がなされた。

＜評議員等資格審査委員会＞

- ・次回評議員申請期間は2017年3月1日～3月31日である。

＜倫理委員会＞

- ・次年度学術集会より、演題登録時に倫理審査チェック項目を設け、演題採択の参考とする。

＜利益相反委員会＞

- ・本年の利益相反申告状況が報告された。

＜学術集会プログラム委員会＞

- ・第57回学術集会優秀ポスター賞受賞者が報告された。

＜学会誌編集委員会＞

- ・学会誌発行状況が報告された。2017年から Medical Online へ掲載予定である。

＜学会賞等選考委員会＞

- ・第6回日本小児血液・がん学会学術賞受賞者及び平成28年度大谷賞受賞論文が報告された。

＜研究審査委員会＞

- ・研究審査委員会審査状況が報告された。

<疾患委員会>

- ・各疾患委員会活動状況が報告された。
- ・白血病・リンパ腫、組織球症、造血細胞移植、再生不良性貧血・MDS 各委員会の選任方法の変更が報告された。

<看護委員会>

- ・委員会が組織され規程が策定されている。

<教育・研修委員会>

- ・小児血液・がんセミナー開催状況が報告された。次年度より厚生労働省委託事業ではなくなるため、予算を縮小して継続することを計画している。

<専門医制度委員会>

- ・各種認定状況が報告された。

<社会・広報委員会>

- ・ホームページ改訂に向けて準備中である。

<保険診療委員会>

- ・診療報酬改訂情報の報告及び改訂要望募集の周知がなされた。

<国際委員会>

- ・SIOP2018 開催に向けて国内組織委員会を立ち上げている。

<緩和ケア研修等事業委員会>

- ・厚生労働省委託事業として実施している「小児がん医療に携わる医師に対する緩和ケア研修等事業」は本年度が実施最終年度となるため、次年度以降の小児科医のための緩和ケア教育プログラム CLIC(Care for Life-threatening Illnesses in Childhood)の開催については、日本緩和医療学会との共催として継続することを計画している。

- ・次年度から別の厚生労働省委託業を計画している。

<学術・調査委員会>

議長は学術・調査委員会堀部敬三委員長に報告を依頼し、堀部委員長より以下の報告がなされた。

日本小児血液・がん学会が主体となって、日本小児外科学会、小児がん全国登録と統合した疾患登録システム構築を計画している。

<質疑応答>

議場より、造血幹細胞移植推進法の改正要望を厚生労働省に提出するよう依頼があったとの意見が開陳された。

6. 第61回日本小児血液・がん学会学術集会会長就任挨拶の件

議長より、理事会における選挙の結果、檜山英三理事長が第61回日本小児血液・がん学会学術集会会長に選定されたことが報告された。

7. 第59回日本小児血液・がん学会学術集会準備状況報告の件

議長は、石井榮一次期会長に報告を依頼し、石井次期会長より第59回日本小児血液・がん学会学術集会の準備状況について以下の報告がなされた。

- ・会場：ひめぎんホール（愛媛県民文化会館）（愛媛県松山市道後町2丁目5-1）
- ・会期：2017年11月9日（木）～11月11日（土）

- ・「チャリティサイクリング in しまなみ」を計画している。

8. 第60回日本小児血液・がん学会学術集会準備状況報告の件

議長は、細井 創次々期会長に報告を依頼し、細井次々期会長より第60回日本小児血液・がん学会学術集会の準備状況について以下の報告がなされた。

- ・会期：2018年11月14日（水）～16日（金）予定
- ・会場：ロームシアター京都及び京都市勧業館みやこめっせ（京都市左京区）
- ・会員懇親会は15日（木）開催予定。
- ・11月16日～19日に SIOP 開催予定

議長は、以上をもって一般社団法人 日本小児血液・がん学会の定時社員総会に関するすべての議事を終了した旨を述べ、閉会を宣した。